会報

No. 3

1984.3.1発行

京都府図書館等連絡協議会

事務局
京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 771—0069

私の出会った本
—座右の書—

海住山寺住職　佐脇貞明

私が住む海住山寺の山裾に、東洋史学者として有名な内藤湖南先生の恭仁山荘がある。そして、書庫がいくつもある。独断であるが、先生がここに所蔵されていた本の全頁を読まれたとは思い難い。しかし、どこに何が書いてあるかは知っていられたと思うし、必要な時は何時でもお手元に出されたと推察している。（湖南蔵書は最近関西大学に引き取られたようである。）

日本仏教史を専攻した関係上、仏教学と日本史の書物が集まることゝなった。書名、目次に魅かれて求めても、内容が期待外れで、積読の書もある。親子二代、三代と読まれゝば、本も幸せであろうが、代々同じ分野を極めることは稀有であろう。欲深く「日本大蔵経」など揃えたが、今後、海住山寺を預ってくれる御仁ならば、有効に利用してくれるものと期待している。

座右の書としては、鎌倉時代の高僧で海住山寺の中興の祖、解脱上人貞慶の著「愚迷発心集」である。これは岩波書店刊行の「日本思想史大系」15巻『鎌倉旧仏教』に所収されている。上人は明恵上人高弁（一一七一—一二三三）と並んで、伝統ある仏教を基として、世直しを志した人である。平重衡による南都焼打（一一八〇）以後の乱世に、何が正しい教えかを問い釈迦に帰れと説かれた。上人は興福寺で学び、38才にして笠置山に入山し、厳しい修行と反省の中で、この書を著された。それには、「深山の洞に移ると雖も（中略）一行も守ることなし、（中略）手に念珠を廻して数うると雖も餘念と相乱し、口に宝号を唱うと雖も、心と唇と調はず」と述べられている。少しでも修行の道を歩んだ者であれば、この心境がよくわかる。しかし、この実感を赤裸に披瀝する人は少ない。むしろ、不充分さを覆い隠すのが、人の常ではなかろうか。青年期にあって、自らも手に数珠を持って、眞言を唱う礼拝行の時であった。この修行の合間をみて、主任教授から命を受けていた学会雑誌への論文の、書き直しをした。まさに上人の心境を読み取ることができた。

私の宗教者としての中心に、この「愚迷発心集」の解脱上人の言葉が通っている。宗教の本は心で読めといわれている。自らの体験と、著者とのそれとが一致したとき、本当の理解ができる。

私達の周囲は印刷物のまさに氾濫である。安易なものについ手が延びがちであるが、一生を通じ、人生の血となり肉となる書物に出会えた人は幸であろう。若い人達にぜひ、この種の幸せを得てもらいたいものと思う。

▼第4回理事会報告▲

今年度最後の理事会が2月14日開かれました。今回は、役員改選を控えているため、審議結果を次期役員に引続ぐことになりました。

議題は一部修正して了承され、59年度第1回理事会及び定期総会に諮ることになりました。

なお、次期役員は、3月24日（土）までに選出し、4月中旬に第1回理事会、5月中旬に定期総会を開催する予定です。

今回の主な議題は次のとおりです。

(1) 昭和58年度事業報告（案）及び収支決算（見込）（案）について
(2) 昭和59年度事業計画（案）及び予算（案）について
(3) 会則一部改正について
(4) 役員改選について
(5) その他

にゅうす・ニュース・News

開館20周年を迎えて
京都府立総合資料館

京都府立総合資料館は昨年開館20周年を迎え、昨年10月14日、関係各界各位の参列をえて20周年記念式典を行い、また、翌15日には記念特別文化講演会を開催しました。さらに、記念特別展示として、洛中洛外図を中心とする近世初期風俗画の名品を一堂に集めた「洛中洛外図の世界」展（58年10月～11月）を開催し好評を博しました。このほか、20周年記念事業として、館蔵名品展（58年5月～6月）、コプト裂展（59年2月末～3月）、環頭大刀の発見展（59年2月末～3月）等の展示、並びに「京都府資料目録」の刊行（58年度中刊行予定）を企画しました。

総合資料館は昭和38年10月制定の京都府立総合資料館条例により「京都に関する資料等総合的に収集し、保存し、展示して調査研究等一般の利用に供するため」設置され、同年11月15日開館式を挙行し、翌16日から一般への業務を開始しました。以来、所蔵資料、業務内容、利用者、設備などの点においても増大・発展し、また組織・機構面で何度か改革を実施し、館運営の改善を行ってきました。

現在は、庶務・文献・歴史資料・文化資料の各課を置き、また、京都府行政情報資料センターを併設し、資料の収集・整理・保存、調査活動、閲覧・相談、展示、撮影と複写サービス、講習会開催、施設の利用提供、出版物刊行など、数他くの業務を行っています。

これからも、より一層府民に親しく利用される文化施設としての役割を果すために事業を推進してまいりますので、関係諸機関各位の御協力を賜わりますようお願いいたします。

（京都府立総合資料館）

●貸出しが全国三位に

「日本の図書館一九八三」が発行されましたが、それによると、人口百人当たりの図書貸出しにおいて、全国公立図書館のうち、人口一万五千人～四万人では木津町立図書館（百人当たり四八九冊）、人口六万人～十万人では八幡市立八幡市民図書館（百人当たり五四七冊）がそれぞれ三位でした。

✽

京都府南部図書館等担当職員連絡協議会のうごき

本会は、京都市を除く京都府南部の図書館・公民館図書室で構成されており、現在11館が所属しています。

公共図書館に寄せる地域住民の期待が高まっているなか、その要求に応えるべく図書館や公民館図書室の職員の図書館活動並びに図書館奉仕の充実・向上の研修の場として、各館振興と相互の協力をはかるため、昭和52年発足しました。各種講座・研修会・調査・研究等の事業を行い、各館の情報交換の場として重要な地位を占めています。

昭和58年度の事業・研修は次のとおりでした。

☆総会（'83・7・4）
各館現状報告、規約改正について、その他情報交換

☆パネルシアター研修会（'83・12・6）
講師　京都レクリエーション協会
米谷由紀子指導員

☆コンピューターを使うための図書整理（'84・1・27）
講師　㈱図書館流通センター
小澤嘉謹氏

友好の丹後町コーナー設置
木津町立図書館

京都の最北端（丹後町）と最南端（木津町）が文化・産業の交流を図り、相互の発展のため、友好町の縁組みをしましたが、その木津町では「丹後町を住民によく知ってもらおう」と図書館内に丹後町コーナーを設置しました。（'83・11・15～29）

コーナーには丹後町内の名所を紹介したカラー写真、丹後ちりめんの華やかなカレンダー・ポスター及び丹後町関連図書（「丹後町史」、「丹後町今昔写真集」、「私たちの丹後町」、「丹後町大山古墳群発掘調査報告書」、「郷土の文化財」、「間人（たいざ）の風俗あれこれ」等）を展示し、その後は特設書架を設けて貸出しを実施しました。

〃大住岡村長寿会読書グループ〃（田辺町）
優良読書グループとして表彰

全国読書推進運動協議会から第16回優良読書グループとして、田辺町岡村読書グループが表彰され、伝達式が行われました。（'83・11・11）

このグループは熱心な読書活動を続けて九年になりますが、現在会員は15人。読書だけでなく、文学散歩の会を催し、古典に親しみ郷土史を研究したりして、読書の喜びと会員相互の深い理解・交流が支えとなり、また田辺町教育委員会や町立図書館の移動図書館による援助・連携によって現在まで着実に活動を続けています。

●研修研究委員会

☆'83読書週間「文化講演会」

と　き　'83・11・2

ところ　福知山市民会館

テーマ　「子供の情操と絵本」
　ー作品の中にみる子ども像ー

講　師　京都女子大　岡田純也氏

子どもと絵本の間に豊さをもった大人がいれば、子どもが本の世界に出会ったとき、心の中に咲く花は、色鮮かないい花になるだろうし、どんなにすぐれた絵本があっても、その真中にいる大人が大変粗雑であったり、忙しいからといって読み聞かせをめんどくさそうにするようでは、良い絵本の世界は半減し、子どもの心の中に入りこまない。絵本の世界は、子どもにとっても大切であり、大切な子どもがあってこそ読み方もきまるなど、社会的言語から家庭内言語、そして絵本へとユーモアをまじえた楽しい講演でした。

☆第25回職員実務研修会

と　き　'83・12・2

ところ　舞鶴市民会館

テーマ　図書館の仕事ー図書館職員と住民とのつながりー

講　師　澤田会長

事例発表　石井満紀子（大山崎町）

石田　真弓（亀岡市）

図書館職員は一冊でも多くの本を読むことと、常に問題意識をもって仕事をしなければならない。一冊の本を利用者に手渡すにしても、自分が読んでる本というのは大変自信をもって貸出すことが出来る。また自分が身につけたことがらを、他人に話して理解と協力を得ることが必要であり、表現力を身につけることも仕事の上で大切である等強調されました。

☆第26回職員実務研修会

と　き　'84・2・24

ところ　京都府立図書館

テーマ　「OHPを使ったフィルム影絵」及び実習

講　師　小前弘子氏
（大阪市立中央図書館）

OHP（オーバーヘッド・プロジェクター）を使っての大変楽しい影絵の講義・実習でした。背景の色彩が美しく、影絵のシルエットがとても幻想的で、影絵の楽しさが簡単にOHPの利用で味わえ、今後大いに活用されるものと思われます。

今年度の実務研修会の終了に際して、第24、25、26回の研修会に参加された方々の中から、貴重な御意見、御感想を頂きました。研修研究委員会では、それらを参考にして今後の研修を企画していきたいと思っています。

専門委員会ニュース

●相互協力委員会

相互協力委員会は、58年9月8日、10月11日、11月17日及び59年1月26日と4回開催しました。

当委員会で推進していく事業は、次のとおりです。

(1) 相互協力計画の策定
(2) 資料の収集、整理、保存
(3) 相互貸借など資料提供
(4) 目録、書誌、索引など資料情報の作成配布
(5) 参考調査
(6) 大学、学校、専門図書館など関係団体との連絡交流
(7) 図書館業務の機械化
(8) 図書館施設
(9) 図書館職員
(10) 図書館活動のPR
(11) その他、相互協力活動の調査研究と実施

当委員会では、第一回以来、取上げるべき事業として、何が重要であるか、取組みやすいか、実現しやすいかということを念頭において、当面何をするかについて協議しました。

その結果、会報2号において少し紹介しましたように、逐次刊行物の取扱いが各館とも課題であること、全国的に分担保存が進んでいることが明らかになりましたので、これを取上げることにしました。

逐刊の分担保存のメリットは、

(1) どこの館でも廃棄しているものが、どこかの館で保存できる、

(2) 書庫スペースの点で、他の館で責任をもって保存すれば、安心して廃棄できる、というところにあります。

しかし、京都府の公共図書館における逐刊の実態が全くわからないので、まずその実状を知りたい、ということから、逐刊の収集、整理、保存、利用上の現状と問題点を明らかにし、更に分担保存・相互貸借の可能性を探るためアンケート調査を行うことにしました。

今回の調査では、逐刊の所蔵調査も含めて考えていますので、京都府内の逐刊総合目録の編集が可能となり、所蔵館の紹介、コピー利用など図書館サービスの向上に役立つものとなり、委員一同はりきって取組んでいます。

次回委員会（3月上旬予定）は、この調査書の最終協議を行い、4月1日現在で記入をお願いしたいと思っていますので、皆様のご協力をお願いします。

● 新委員紹介　大槻政美（田辺町立）

実務研修会に参加して

58.12.2. 舞鶴市民会館

当市で行われた研修会は、8か月の経験しかない私にとって大変有意義な一日でした。実践発表では、二名の方の日夜努力しておられる様子を聞きながら、少人数の職場で、寂しく仕事をしている私には、亀岡市の石田さんのように一人で、今日の充実した図書館を築くための勉強は大変な苦労であったろうと思います。そして、不満ばかり述べている私には、現状と比較して参考にさせて頂くことが沢山ありました。

また、大山崎町の石井さんは、いろんな研究をされ、今後の課題を取りあげて目標を達成するために、頑張っておられる様子を聞いた時は、事務しか経験のない私には、何も出来ないのが恥ずかしい位でした。

つぎに、会長さんから図書館員としての心構え等を教えて頂きましたが、市民の図書館として、みんなから親しまれる場を築くために、住民サービスに心掛けていますが、人手不足等でゆきわたらないこともあります。また、問題が生じても、市町村の交流を深めることにより、大きな成果を生みだしますから、今後の研修会を期待します。

（舞鶴市立西図書館　寺島均江）

◎石田さん（亀岡市）、石井さん（大山崎町）のお二人の図書館活動に情熱をもって取り組み、常に全力投球しておられる話を聞き、私自身とても励まされました。と同時に、図書館に勤めて早や二年半が過ぎた現在今の自分に「これでいいのか」と深く考える機会を与えていただきました。

もともと〝人〟が好きなので、研修などに行くと、できるだけ他の図書館の人と話すようにしています。日頃仕事面で感じていることが一緒だったりすると、親近感を覚え時がたつのも忘れて話しこんでしまうことも多々あります。十分話した後は気分一新し、「さあ、私もガンバロー」とヤル気十分になります。

ところが最近は行動範囲が極めて狭くなり、他館を見学したり、話す機会といえば研修の時ぐらいですが、これからはもっと務めてよその図書館も見学したいと思います。

そして、もっともっと多くの住民に利用してもらえるよう、利用しやすい図書館づくりに努力し、児童サービスに力をいれ、誰からも親しまれる司書となるよう、努力していきたいと思います。

図書館勤務一、二年対象ということで新米の私にとっては、大変わかりやすく身のある研修でした。

（峰山町立図書館　藤原恵美子）

南丹地区図書館等職員研修会開催!!

昨年12月8日、南丹地区社会教育研究協議会と亀岡・船井公民館連絡協議会の共催で公民館・図書館職員研修会が「図書館（室）の充実のために」をテーマに開催されました。南丹地区の図書館の状況は、独立したものを持つのは亀岡市だけで、船井郡六町では、いずれも公民館の中に設置され、住民からその整備が強く望まれているところが多い。

午前中は、園部中央公民館長高木茂氏の講演で、生涯教育視点に立つた社会教育を創造すべき重要な時期にあたり、公民館と図書館の接点を見つめ直すことが強調されました。

午後は、和知町中央公民館図書室の巡回取組みと亀岡市立図書館分館活動の発表、及び各市町の実践交流がなされました。図書を身近に感ずる環境づくり、図書館（室）を支えてくれる住民組織づくり、学校図書館との連携、南丹地区図書館（室）のネットワークの強化等が話し合われました。

具体的には、今日盛んになってきた住民の郷土学習に、より的確に応えるため、各市町が保有する郷土学習資料を整理し、その目録を交換することを決定し、その取組みを、今、進めているところです。

（京都府南丹教育局）

●昭和59年度の全国図書館大会は、10月25日（木）から10月27日（土）までの3日間、大阪の千里丘陵を中心に行われることになりました。

大会実行委員会で、分科会の内容や各会場について検討しており、準備の方は着々と進んでいます。

7年ぶりの近畿での大会を成功させるために、近畿公共図書館協議会では、例年実施している研究集会をすべて中止し、大会に総力をあげることになりました。

大会について詳しい内容がわかりましたら、「会報」でお知らせします。

●訂正とお詫び

会報二号で図書紹介の書名に誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

正「公立図書館原論」森　耕一著

（図書館学大系）

編集後記

今年はとりわけ雪が多く、厳しい昨今ですが、吹く風の中に春のにおいが感じられ、いよいよ春ですね。

読書週間の行事を一覧表にまとめてみました。その節は御協力ありがとうございました。それぞれの館での多種多彩な取組み、大変興味深く、今後の催しに参考になれば幸甚です。

協議会、会報に対する御意見、御批判をお待ちしております。

1983 読書週間行事まとめ

館名及び行事	備考
福知山市立図書館 • 「親子で仲よい読書」運動	鉛筆に「親子で仲よい運動」と入れて、図書館利用者に配布
宇治市民図書室 • 読書週間記念講演会	講演「宇治の花と源氏物語」 講師　相馬　大氏
木津町立図書館 • 親と子の読書のつどい • 姉妹都市　丹後町コーナー開設特別展	人形劇（かさこじぞう）、パネルシアター 紹介（丹後町史、カラー写真、丹後ちりめんポスター）
精華町立図書館 • 第5回　文学散歩	京都東山方面へ
亀岡市立図書館 • 成人用図書受賞作品展 • 生け花（協賛　笑玉会） • 講演と映画の集い	文学賞受賞図書作品展示（目録作成） 展示作品より読書後の印象を生け花で表す 講師「子どもと読書ー絵本の選び方と与え方」 講師　石田真弓司書
園部町立園部図書館 • 手作り絵本講習会 • ジャンボ紙芝居	大型紙芝居（80㎝×110㎝） イルカ原作「ノエルの不思議な冒険」 （紙芝居・外枠も手製）
和知町中央公民館 • こども，紙芝居と読書相談 • 手作り絵本講習会	
舞鶴市立西図書館 • 講演「読みきかせとお話」 • 読書運動（協賛　村田舞鶴堂）	講師　古牧　邉氏 読書週間中に図書を借り出した小・中学生に鉛筆1本ずつ進呈
舞鶴市立東・西図書館 • 読書感想文募集（共催　舞鶴市教育委員会）	
宮津市立図書館 • 読んだ本のお話を絵にする作品募集	
峰山町立図書館 • 第24回　児童生徒読書感想文の募集	自由課題、各分類毎に入選者を決定し、「町報」に発表

京都市中央図書館	
• 読書週間　特別講演会 （共催　京都市社会教育振興財団 協賛　京都市図書館読書友の会 京都家庭文庫地域文庫連絡会）	「京都の昔話」 講師　稲田浩二氏
• 秋のおたのしみ会	人形劇（森のくまさん）、お話（京都の昔話） 大型紙芝居（ゆかいな一休さん）
• 読書週間ポスターコンクール入選作品展 （共催　京都市社会教育振興財団 京都市中学校図書館研究会）	中学生の描いた読書週間のポスターのうち、優秀作品 ２０点を展示
加茂町教育委員会	
• 図書館と住民のつどい （共催　京都府立図書館）	講演　「私と読書・図書館」 講師　澤田種治氏 紙芝居　実技指導
大山崎町立中央公民館	
• お楽しみ劇場 （共催　小倉・竹の子・夕月各地域文庫 大山崎町教育委員会）	指人形、巻絵、紙芝居、読みきかせ、ゲーム
京都府立図書館	
• 読書推進講座	「平安朝時代の文学」 ―伊勢物語から源氏物語へ― 講師　今西祐一郎氏
京都府図書館等連絡協議会	
• １９８３ 読書週間　文化講演会 （共催　福知山市立図書館 京都府立図書館 京都家庭文庫地域文庫連絡会）	「子どもの情操と絵本」 ―作品の中にみる子ども像― 講師　岡田純也氏

園部町立図書館

亀岡市立図書館